

2026年5月7日



『朝礼時講話～連絡事項』

## (1) 講話概略【『阿弥陀様に願われている自分を知る』お話】

本日、初代苑長・太田受宣さんご逝去から丸29年の祥月命日を迎えました。

今日は、受宣さんの講演録「生き生きとした老後を送るために」の中から一節を紹介し、講話と致します。

私の伯母は、私が高校に入る頃に亡くなりました。伯母の家は、本当にお寺から近い所にありました。

その伯母は、長男夫婦に出て行かれてしまうという悲劇にあいました。その上に、隣近所が燃えるという大火災が起こりまして、着る物も何もなくなって、伯母が死んだ時には、たった2枚の着物しか残っていなかった程でした。それほど本当に何も無い生活ぶり、生涯貧乏のどん底を歩いてきたような一生でした。最期は、1番目の娘がずっと面倒をみていたようです。

この伯母は、本当に寝る間も惜しんで働いていたようです。そういう中で伯母は喘息にかかってしまい、その喘息も本当にひどいもので、20年間というもの、布団の上に足を伸ばして寝た事がないという程、ひどい喘息でした。夜になると、喘息がひどくなってきて眠る事ができません。それでいつも、膝を抱えて座って眠るわけです。そして、夜中に息ができなくなりますと、呼ぶ事もできませんので、側に物差しを一本置いておきまして、その物差しでパンパンと布団を叩いて伯父を起こして、その伯父に毎晩毎晩、喘息の発作を治める注射をしてもらっていたという事です。そのような生活が、20年間続いたのです。

そのように、病気と貧乏の生涯を送った伯母でしたが、嫁にいった娘に背負われて、お寺のお説教の時には必ずお参りをしていました。そして、いつも笑顔を決やさない伯母でありました。

その伯母が亡くなったのは、私が中学を卒業して高校に行く4月の事でした。4月6日が入学式でしたので、前日の5日に入院している伯母の所に行きました。ところが、爪は真っ黒になってしまっていて、腹はパンパンに張ってしまって、そして顔は完全に土色になっている。そういう状態の中でも、私を見るとニコッと笑って、息も絶え絶えの中から、

『ああ、よく来てくれたね。…おめでとう。…貴方、これから頑張らなければならないよ…。』

と言ってくれたのです。その時、‘ああ、これが今生の最期のお別れかな…’と、少年の私ですら思いました。私が伯母に対してそういう気持ちでおりましたら、伯母はその事には直接触れなくて、こう言いました。

『受宣ちゃんは、私の事を、かわいそうな人だと思っているでしょう！？』

こう聞かれました。私は、実はそのように思っていましたので、応えに窮してしまいました。色々な病気と貧乏と、様々な事に苛まれて、‘かわいそうだな…’と、思っておりましたので、ドキッとしました。そうしたところが、伯母はニコッと笑って、

『実は、私はその反対なのよ。』

と、こう言うではありませんか。私はハッとしました。どうしてこういう事を言うのかと思いました。

『う～ん、貴方にはまだ分からないかも知れないけれど、私には色々な苦しみとか、人に裏切られるとか、自分の心が通じないとか、火事にあうとか、病気になるとか、そういう事を通さなければ、私の強欲な心は、阿弥陀様に願われている自分である事に気づく事はできなかったんですよ…。』

と、こう言ったのです。私は、それでも当然分かりません。すると、伯母はまたニコリ笑いました。

『いいんだよ、今は分からなくても…。貴方には、きっといつか分かる時がくるから…。』

と言われた時、胸に詰まるものがありまして、

『さようなら、伯母さん…。』

そう言って、病室の外に出ました。そして、病室の外で、何も分からないままに涙が流れて仕様がなくて、涙を流していました。私が願われているという事を、一番最初に感じさせられたのは、その時でした。

『「生きる意味」を発見し合える道場にしたい』という光寿会目的は、この時に生まれていたのかも知れませんね。

## (2) 連絡事項【講話+①② = 理事長】

- ① 管理栄養士Sさんが、来月より常勤から非常勤となり、月1回の出向の形での勤務となります。急な事ですので、引継ぎ等大変な状況ですが、丁寧に1つ1つ対応していきましょう。
- ② 5月1日より、M.Oさんが新入介護職員としてひなたぼっこに来ています。直接、光寿苑と関わる事は少ないですが、宜しく願ひ致します。